

東漸

T O Z E N

認知症対策について
地域包括センターに活用法、
介護施設・地域での対応など
様々な観点をふまえた

平成26年第3回定例会代表質問

予算特別委員会

◎大規模スポーツ施設について ◎29年宮城インターハイ強化策について

TOPIC ◎平成26年度 施工個所一覧表 ◎48LinersCup2014



TOPIC

平成26年度 施工個所一覧表

※平成27年1月16日現在で契約中の工事

平成27年1月15日 宮城総合支所道路課

No.	工事件名	施工場所	金額(千円)	工期	工事概要		
					工種	延長(m)	幅員(m)
1	(市)愛子1号線道路整備工事	青葉区愛子東六丁目～愛子東四丁目地内	14,688	H26.10.9～H27.1.31(延期予定)	道路改良	87.0	10.0
2	(市)愛子赤坂線(愛子工区)歩道整備工事	青葉区愛子中央一丁目地内外	35,208	H26.12.9～H27.3.31	道路改良	216.0	12.0
3	(市)青野木鳴合線(新鳴合橋)道路改良工事	青葉区上愛子字松原～芋沢字新田地内	148,780	H26.12.26～H27.3.31	道路改良	495.0	10.0
4	(市)郷六青葉山線側溝整備工事	青葉区郷六字郷六山地内	23,122	H26.12.9～H27.3.20	側溝整備	510.0	-
5	(国)457号外2線舗装改修工事	青葉区落合二丁目～芋沢字青野木地内	29,141	H26.12.8～H27.3.31	舗装改修	815.0	3.3～9.7
6	(国)457号(落合工区)歩道改修工事	青葉区落合五丁目地内	8,640	H26.8.29～H27.2.10	歩道改修	264.6	0.6
7	(市)新川ハイランド線(セイコウ大橋)橋梁補修工事	青葉区新川字佐手山地内	10,800	H26.12.6～H27.3.31	橋梁補修	65.0	8.8
					上部工(支承取替)		

西花苑一丁目工区外2工区 工事概要

件名 造成宅地滑動崩落緊急対策(西花苑一丁目工区外2工区)工事

工期 現契約 平成27年3月31日

請負金額 現契約金額(西花苑一丁目工区 金350,000,000円)

主な工事内容
西花苑一丁目工区

○土木 挖削 35,940m³ 逆T型擁壁(H=9.0m L=76m) 733m³
盛土(流用土) 2,740m³ ○植生工 植生マット 7,510m²
改良盛土 19,700m³ ○排水構造物工 1式



48LinersCup2014を開催しました!

平成26年12月20日～21日
仙台市立広陵中学校体育館／仙台市宮城西市民センター

仙台・山形中学女子バレーボール交流大会として、仙台6チーム・山形6チームの計12チームが大会に参加し、仙台山形間の交流の輪を広げるとともに選手同士も親睦が深まり、多いに盛り上がりました。



も、発症者は男子に多いのです。本人が現役世代なので認知症になつて職を失うと経済的に困ります。親の病気が子供に与える心理的影響も大きく、教育・就職・結婚などの子供の人生設計が変わることもあります。

若年性認知症の場合、多くの人が現役で仕事や家事をしているので、認知機能が低下すれば、支障が出て気づかれやすいと考えられます。実際には仕事でミスが重なつたり家事がおつくくなつたりしても、それが認知症のせいだとは思いません。多くは他の病気だと思って医療機関を受診します。そして誤った診断のまま時間が経過

人は健倉で高齢者となり安心して生
活できることが一番ではないでしよう
か。単なる長命ではなく健康寿命です。
それに反して認知症対策はすべて発症
してからとりうる方法を考え、対処しよ
うという道筋ですが、そもそも高齢者で
も認知症に罹っている人よりも罹って
いない人の方が多いわけだから、何を自
覚しどんな努力をすれば認知症になら
ないか、従来の生き方を見直して改善す
る道があるのでないかと考えます。ま
だ寡聞にしてこのような話を聞いたこ

合、若年性認知症と言いますが、その原因となる疾患は血管性認知症が40%、アルツハイマー病が25%、頭部外傷後遺症が8%、その他となつており、全国で37800人（H21年3月発表）です。認知症高齢者が300万人以上と言われているので、それに比べれば少ないけれど、先首筋は月子から、つづく。次へが見

こうしたことから、今後本市では、商工会議所やハローワーク、協会けんぽなどの委員で構成する働く市民のネットワーク会議と連携し、職場内において、若年性認知症の方を早期に発見し適切な支援につなげていくための取り組みを行ってまいります。

域における認知症対策として、早期発見・
早期対応のための支援体制づくりを進め
るとともに、本人とそのご家族への相談・
支援を行っております。

今後、センターが地域包括ケアシステ
ムのコーディネーターとしての役割を果
たすためにも、民生委員児童委員、町内会
や地区社協など、地域の方々との連携を
より一層強化する必要があると考えてお
ります。

市としては、職場の管理者・経営者など上司が従業員の働きぶりにばかり注目して、若年性認知症の兆候を見逃すことのないように、頻繁に啓発の機会を設けるよう積極的に担当機関を機能させなければならぬと考えますが、当局のお考えをお伺いします。

地域包括センターに活用法、介護施設・地域での対応など 様々な観点をふまえた認知症対策について

年々増加して社会問題になっている 認知症対策についてを問う

初期症状とは想像もできません。このようにして次第に重症化して家族の手に負えない状態になつて初めておかしいと思い、精神科を受診させた時にはだいぶ進んでいたというのが多いと思います。高齢になればできなくても当たり前という常識は通じなくなつた現今です。

そこで、このようなことを高齢者を持つ家族に知つて貰うことが大切だと考えますが、市では現在どのような対策を進めているかお伺いすると共に今後の対策の進め方についてもお伺いします。

ると考へてゐるものでござります。このような考へから、本市では、ご家族や周囲の方々が、認知症を正しく理解し、早期の気付きにつなげることができるように、認知症に関する教室や認知症サポーター養成講座などを開催いたしますとともに、地域の「かかりつけ医」の皆様が、認知症専門医との連携を高めるための研修も実施しているところでございます。今後とも、仙台市医師会、介護事業者、家族会の皆様などと連携をし、認知症は高齢社会において誰もがかかりうる疾病であるということを多くの方にご認識していただけるよう、様々な機会を捉えて市民の皆様への啓発に努めてまいる所存でござります。

初期症状について

子さんが「恍惚の人」という本を出されたのが昭和47年でございまして、ただいまお話をございました、この認知症の問題が広く世に提起されるきっかけの1つであつたのではないかと考えるところでござります。当時は、限られたご家族の方々を中心とした、いささか孤立無援な中での活動であったと記憶をいたしておりますけれども、その後多くの方々のご尽力により、次第に支援の環境とその輪が広がり、現在では関係の皆様と私ども行政が広く連携をして対策を進めるという状況となつていると認識をしております。

今後、高齢化に伴いまして、認知症の方がさらに増えるものと見込まれますけれども、まずは、認知症の方と日常的に接す

一 Q ヴヴ 加藤 和彦 議員 地域包括支援センターの 役割の周知について

A man with dark hair, wearing a dark suit jacket over a light-colored striped shirt, stands behind a wooden podium with two microphones. He appears to be speaking or addressing an audience. In the background, another person in a similar suit is seated at a desk.

Q 加藤和彦議員

形は立派にできても 実行が伴わない根源について

認知症患者の増加を背景に、認知症に関する様々な調査研究が行われており、その中には認知症に罹らない体质づくりの研究もすすめられていると伺っております。しかしながら、未だ明確な予防策が示されてはいないことから、本市といたしましては、そうした医学的な研究の動向を踏まえながら、必要な認知症対策を国に求めてまいりたいと考えております。

取り組みはできないのか、認知症に罹らない体質づくりは本当に不可能なのか、何としても知りたいと思います。世界で最も認知症高齢者の少ないと思われる地域をいろいろな角度から調べてみると、などの報告はまだ出ていないように思います。

この点について当局のご見解をお伺いします。

ると考へてゐるものでござります。このような考へから、本市では、ご家族や周囲の方々が、認知症を正しく理解し、早期の気付きにつなげることができるように、認知症に関する教室や認知症サポーター養成講座などを開催いたしますとともに、地域の「かかりつけ医」の皆様が、認知症専門医との連携を高めるための研修も実施しているところでございます。今後とも、仙台市医師会、介護事業者、家族会の皆様などと連携をし、認知症は高齢社会において誰でもがかかりうる疾病であるということを多くの方にご認識していただけるよう、様々な機会を捉えて市民の皆様への啓発に努めてまいる所存でござります。

護・福祉・保険・医療など身近な人から各種機関までの支援を受ける必要があります。しかし、本人自身や家族が認知症だと思いつくのは諸症状のごく一部で、それなら十分生活できると判断している場合が多いと思います。必要を感じないと手を出さないのは普通だと思います。

そこでせつからく力を入れて開設してある地域包括支援センターの機能や仕組み、活動の範囲と活動状況、地域との連携の理想と実態、今後取り組む課題等について当局のご説明をお願いします。

療・介護関係者等との連携を推進することと、一定の役割を果たしてきたところでございます。

しかししながら、精神科医の減少により、現在、その機能を停止せざるを得ない状況でございます。全国的に総合病院に勤務する精神科医が減少している厳しい状況の中で、当院といたしましては、当面は地域において拡充が強く求められていく、身体疾患と精神疾患を併せ持った救急患者を対象とする「身体合併症精神科

は、業務の半減や待遇の向上など、喜んで勤務できる病院の体制づくりが求められています。これらのこととを総括して当局はどういうなお考えかお伺いします。

支 援 体 制 の構 築 を進 める予 定だ つたが、平成26年 当初から 常勤 医師はい なくな り、3人で週2日 大学から 派遣を受けて 業務に当たつて いた だいて いる状態で、平成25年5月から 病院休棟、同時に認知症の鑑別診断等、認知症疾患 医療センターの業務を休止して います。

加藤和彦議員 × 健康福祉局長

救急医療に重点を置き、医師の負担軽減等勤務環境の向上を図りながら、必要な医療提供体制の確保に全力で取り組んでまいりたいと考えております。

高齢者認知症患者の介護に当たる家族は、夫婦なら老夫老妻となり、つきつきの介護に疲れてしまう場合が多く見られ、介護施設に入所させる事も必要になります。費用は公立・病院施設・一般の会社など立地の違いで差があり、宿泊施設では、高額になる消費税の値上げはここにも影響し月額2万円多く支払うようになりました。しかし需要は盛んで順番待ちのところが多いと聞いています。結局支払い能力のある家庭が利用できる介護施設ということです。この場合、入所に際して取り交わす契約書の内容が本当に実施されているのか、入所者や職員に対する経営者の姿勢が問われて問題化しているところもあります。つまり経営者の利益追求の対象にされているところもあり、市の指導・監査目を光らせてほしいものです。



認知症の相談窓口一覧

青葉区 地域包括支援センター 一覧

センター	住所	電話番号	FAX番号
五橋	青葉区五橋2-12-2 仙台市福祉プラザ7F	716-5460	213-6457
上杉	青葉区上杉2-3-19 オオノビル5F	221-5569	713-3377
国見	青葉区八幡4-2-1 早美ビル102号	727-8923	727-8924
木町通	青葉区木町通2-3-22 内海ビル1F	728-7830	728-7831
双葉ヶ丘	青葉区双葉ヶ丘2-9-2	275-3881	275-4786
葉山	青葉区葉山町8-1	273-4910	273-4919
台原	青葉区台原森林公園1-3	727-5360	233-4248
花京院	青葉区宮町2-2-6 アルデール宮町1F	716-5390	263-5889
大倉	青葉区大倉字大原新田26-12	391-2161	391-2162
あやし	青葉区落合4-2-22	392-2230	392-8828
国見ヶ丘	青葉区中山1-18-3	303-3805	303-3803
南吉成	青葉区南吉成7-14-1	719-5733	719-5733
桜ヶ丘	青葉区桜ヶ丘2-19-1 みやぎ生協1階	303-5870	719-2505
小松島	青葉区小松島新堤7-1	233-6954	233-6948

・認知症の人と家族の会宮城県支部 263-5091(月～金9:00～16:00)

・認知症疾患医療センター 東北薬科大学病院 259-1221(紹介状必要です) 仙台市宮城野区福室1-12-1

いづみの杜診療所 772-9801(予約が必要です) 仙台市泉区松森字下町8-1

・青葉区役所高齢者総合相談窓口 青葉区役所障害高齢課高齢者支援係 225-7211(内線6307)

加藤和彦議員 × 健康福祉局長 × 病院事業管理者

Q ↓ 加藤和彦議員
家族の手に負えない認知症患者への対応について

高齢者認知症患者の介護に当たる家族は、夫婦なら老夫老妻となり、つきつきの介護に疲れてしまう場合が多く見られ、介護施設に入所させる事も必要になります。費用は公立・病院施設・一般の会社など立地の違いで差があり、宿泊施設では、高額になる消費税の値上げはここにも影響し月額2万円多く支払うようになりました。しかし需要は盛んで順番待ちのところが多いと聞いています。結局支払い能力のある家庭が利用できる介護施設ということです。この場合、入所に際して取り交わす契約書の内容が本当に実施されているのか、入所者や職員に対する経営者の姿勢が問われて問題化しているところもあります。つまり経営者の利益追求の対象にされているところもあり、市の指導・監査目を光らせてほしいものです。

脳を冒されているため認知症高齢者は一般的な高齢者と問題なく交流できるとは言えない。孤立したりふさぎ込んだり、仲間はずれになつたりで、結局認知症高齢者専用の介護施設をもつと低料金で利用しやすく多數開所するようになればよいと思います。市の認可した認知症高齢者対象の介護施設の現在数と、認可を求める開所希望数について当局のご見解と展望をお伺いします。

Q ↓ 加藤和彦議員
在宅認知症高齢者の介護・生活支援について

Q ↓ 加藤和彦議員
要支援から軽度要介護の認知症サポート医の養成や、認知症初期

問題が家族生活を揺るがし、社会全体がその支援に努力しなければならない時期に到達しており、今後更に社会問題に発展しかねない状況にあることは、周知の通りです。

また、これまで取り組んできた、認知症の早期診断・早期対応を推進するための認知症サポート医の養成や、認知症初期集中支援のモデル事業に加えて、例えば骨折などの医療で、転ぶ原因を単なる老化としてしまわないで、認知症に起因するのではないかと診察するよう各科のすばらしい医療従事者を対象とした認知症対応力向上研修などを通じて、認知症の方が必要な医療のケアを受けることができると体制づくりを推進する必要があるとして、努力中と言っています。しかし肝心の市立病院の精神科医師の不在を解消しなければ、司令塔を欠いての事業となり、どのようにして難問を解決したらよいか決断が難しいと思います。そこで問題点を整理して質問しますので分かりやすくお答え下さい。

① 認知症の人が地域で暮らすことの意味
認知症の方が地域で暮らすことは、自宅・介護保険施設などの居住形態に関所あり、認知症の鑑別診断を行つております。
今後とも、認知症の方が、必要かつ適切な医療や介護などのサービスが受けられますよう、支援体制の構築に努めてまいります。

② 地域で安心して暮らす上の課題
認知症高齢者が地域で暮らすためには、ケアマネージャーに相談し、食べ物を届けたりしながら、市の福祉課の人とやつと外来に連れて行き診察を受けさせた。この方について地域生活と市の機能を当局の目から見てどのように考察しますか。
地域で安心して暮らす上での課題認知症高齢者が地域で暮らすためには、様々なサービスの利用が必要です。介護保険では訪問介護やデイサービス、小規模多機能型サービスなど地域生活を継続していく上で利用できるサービスがあり、提供されるサービスの中にそまで活動が反映されていくことが必要です。刺激すれば「できる」という手がかりが潜んでいると見て、それに気づき積極的に取り入れたいものです。また、認知症の症状が原因で本人による意思決定が困難になった場合には、「成年後見制度」の利用など、第三者による意思決定の支援が必要となります。

・ 地域における認知症の理解
認知症の人
が直面する問題を出来るだけ多くの人が理解していくこと。更にその家族の抱えている問題が理解されるなどの普及啓発が果たす役割は大きい。
・ 住み慣れた地域であること
が活かされている認知症になると日常生活や社会的活動が制限される傾向があり、自宅や地域のグループホームで生活していく、生活や活動が「隔離」された状態に陥る可能性があります。どうして認知症の方が生活の中で地域に慣れていけるか工夫が必要です。
市としてはどの組織を中心として活用し、どのようにして地域の中に介護・見守りなどを浸透させる計画なのか、また今後急速に増加すると見込まれる軽度の認知疾患者を早期診断・早期対応するために、どこで診断を受ければよいか、例えば精神科開業医での応力向上研修などを通じて、認知症の方は何か、もっと適切な医療機関があるのでないか、この問題からなり抜けるようでは本気で取り組んでいるとは思えないので、しっかりと答弁をお願いします。



